

8月10日(木曜日) 受付 11:20から

〇 開会式 (11時50分~12時00分) 会場；当日受付にてお知らせします。

研究会会長挨拶、大会オリエンテーション(各会場にて)

【12:00~13:30】

1 A 「言語発達遅滞の評価と支援」

東京学芸大学 藤野 博

ことばの遅れには様々な原因があり、その問題は多様です。自閉症の特性をもつ場合ともたない場合による違いもあります。本講座では様々なタイプのことばの発達の遅れの特徴と長期的な発達過程について、そしてアセスメントと支援の具体的な方法について概説します。また、会話を促進するロールプレイングなど、遊びの中でのことばやコミュニケーションの発達促進法についても紹介する予定です。

1 B 「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

吃音がある子どもへの望ましい対応のためには吃音に関する基礎知識が不可欠です。この講座では、従来の研究で明らかになっている吃音に関する重要な知見と新しい知見を紹介し、吃音は、ほとんどが幼児期に発生し、その多くが学齢期までに消失することが知られています。今回は新しい知見として吃音が回復する子どもと持続する子どもの違いに視点をあてた脳研究からの知見などを紹介します。

1 C 「子どもの発達を促す関わりことば」

公益社団法人 発達協会 湯汲 英史

子どもの発達の目的は、「自分で考えて判断し、適切な振る舞いが取れるようになること」とされます。白紙で生まれてくる子どもは、判断基準を獲得する必要があります。判断基準を「関わりことば」とし、紹介します。また発達障害のある子は、「人と関わるときに使うことば」の学習にも問題を持ちます。どういうことばを言えるようにしたらいいのかについても、具体的にふれます。

【13:50~15:20】

2 A 「聴覚障害児の評価と支援」

筑波技術大学 大鹿 綾

聴覚障害と一言でいっても非常に個人差が大きいものです。一人一人の実態を適切に捉えるために、まず聞こえの状態を示すオーディオグラムの読み取りと、聴覚障害の種類・特徴についてお話しします。併せて、補聴器や人工内耳の効果と限界、それを補助する手段についてお話しします。また、聴覚を積極的に使いたいと考える児童生徒を十分に支えていくための基礎について考えます。

2 B 「吃音児の理解と支援の実際」

金沢大学 小林 宏明

吃音のある子どもの支援では、単に吃音の言語症状へのアプローチだけでなく、発話やコミュニケーションへの不安や劣等感への対処、吃音のある子どもを取り巻く学級担任、クラスの友達、地域、家族への対応など、様々な取り組みが必要です。本講座では、吃音のある子どもの支援の実際について、子どもへの支援、周囲の人への支援の双方について、具体的な事例に基づいて考えたいと思います。

2 C 「発達障害児の理解と支援」

船橋市立三咲小学校 大山 恭子

発達障害のある子どもは、同じ障害であっても困り感人はそれぞれです。そのため、効果的な支援を行うためには、子どもの特性を把握し、その子どもにあった手だてを考えていく必要があります。この講座では、障害の特性とつまづきに応じた様々な支援方法や、学級担任や保護者、医療との連携のポイント、学級の子どもの理解の促し方についてご紹介します。

【15:40~17:10】

3 A 「構音障害の評価と支援」

元西東京市立保谷小学校 中村 勝則

構音の指導は、適切な評価に基づいた発話器官の動きを育てる「口作り」の指導と正しい発音と誤った発音とを素早く正確に聞き分ける力を育てる「耳作り」の指導、そして、これら二つの指導の成果を土台に正しい発音が日常の会話で自然に使えるようにする「音作り」の指導で基本的に構成されています。子どもの改善意欲を高めながら、どのように指導を展開するのかを事例の話を変えながらお話ししたいと思います。

3 B 「聴覚障害児の支援の実際」

筑波技術大学 長南 浩人

発達の早期に聴覚障害を有した子どもの多くは、言語や認知、学力、社会性など精神発達の多様な面で健聴児とは異なる育ちを見せるといわれています。本講座では、その具体例を紹介し、心理的考察を加え、聴覚障害児が見せる育ちの「なぜ？」を考えます。さらに、これに呼応させた教材解釈、発問づくり、教材教具作成、加えて日々のコミュニケーションの在り方を検討します。

3 C 「言語発達遅滞の支援の実際」

東京学芸大学 大伴 潔

本講座では、「語彙を育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として学齢児版のアセスメント「LCSA」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。

8月11日（金曜日）

【9：30～11：00】

4 A 「事例検討の意義と進め方」

元有明教育芸術短期大学 羽田 紘一

言語障害児を一定期間指導した時点で、子どもの状況の改善に適した指導が行なえているか否か、検証する必要があります。その検証には「事例検討・事例研究」を定期的に行うことが有効です。この講座では、『短縮事例法』という事例研究法を紹介し、実際に演習を行います。

4 B 「側音化構音・口蓋化構音の評価～歪み音の理解と聞き取り」

帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音は歪み音なので慣れていないと聞き取りが難しく、指導で悩まれる先生方が多いのが現状です。いろいろなお子さんの発音の動画を見ていただき、聞き取りのポイントや舌の動きの観察法についてお話しします。はじめての先生方も是非ご参加下さい。

4 C 「ことばが育つ子ども支援と保護者支援～幼児期のことばの相談」

國學院大學 野本 茂夫

この講座は、子どもがより良く育つこととそのための子育て支援を視野に入れ、幼児のことばや聴こえ、人とのコミュニケーションに関わる問題にどう対応したらよいかを考えます。人生の基礎基本が育まれる幼児期のことばの問題は、背景にことばの育ちに深くかかわる多様な要因があります。また、ことばの問題に絡んで気になる発達障害の対応も含めことばの教室での相談・支援のあり方を考えます。

【11：20～12：50】

5 A 「難言教育における子どもとの関わり及び教室経営の基礎・基本」

国立特別支援教育総合研究所 牧野 泰美

きこえとことばの教室の担当者は、個々の子どもを、どのように見て、どのように関わっていけばよいのでしょうか。インクルーシブ教育システム構築が進められる中、きこえとことばの教室にはどんな役割が求められているのでしょうか。ここでは難聴・言語障害教育における子どもの理解や子どもとの関わりに必要な視点、子どもを支援する上で大切にしたい教室経営の基礎・基本についてお話しします。

5 B 「側音化構音・口蓋化構音の指導～舌を平らにする方法」

帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、前に出そうとすると細長く張ります。舌を横に広げて平らに保ち、舌の横の感覚や舌先のコントロール性を高めると音の指導がやりやすくなります。舌のトレーニングを実際に体験していただきます。鏡、舌圧子、ストロー（細いもの）、ペンライトなどをご用意ください。一緒に練習してみましょう。

5 C 「描画テストの結果と解釈の進め方」

國學院大學 石川 清明

描画テストに関心があり、既に基礎的な知識を修得され、各教室で指導に利用されている先生方からの要望を受け、コミュニケーションに問題のある幼児や児童を対象に実施したバウムテストの結果から必要な情報をどのように読み取るかについて、事例を基に一般的な手順を確認しながらポイントを解説します。基本的な解釈を体験的に学ぶことが本講座の目標なので、未経験の先生の参加も可能です。

○ 閉会式 次回大会のお知らせ

【12：50～12：55】